

エグゼクティブサマリー（1年目）

初年度目標としていた成果目標の内、経営層・管理職・従業員の行動変容についてコラボヘルス指標の改善は想定約181.1%、従業員の支援認識は101.9%となりいずれも支払い基準値を達成した。

目的

コラボヘルスを活用した効率的な保健事業実施体制の構築によって医療費適正化を実現する

事業内容

事業A：コラボヘルスを活用した効率的な保健事業実施体制の構築

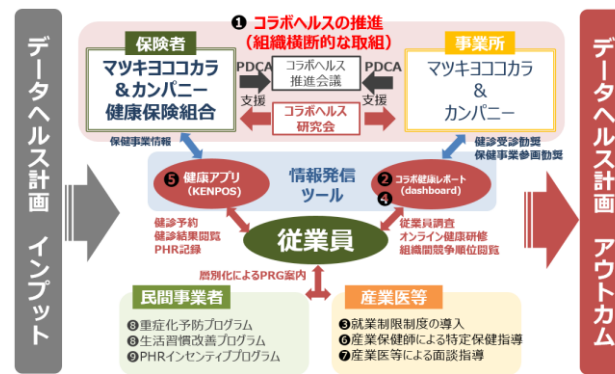
①組織横断的な取組み②分析&コラボ健康レポートの展開③就業制限運用制度の施行④オンライン健康研修の実施⑤PHR（KENPOS）を利用し全員参加型組織間歩数競争等を実施（健康イベントの実施）

事業B：産業保健連携を強化し民間委託事業者とも連携しリスク者への早期介入、早期受診を効率よく実施

⑥特定保健指導該当者に対する産業保健医療スタッフ指導⑦就業制限該当者に対する産業医面談の実施⑧受診勧奨、経過観察該当者に対する保健指導連携⑨PHR情報提供&インセンティブプログラム展開

事業C：データの一元化、活動の可視化、PFS評価指標に基づく効果検証によりコラボヘルスを推進

✓データの一元化 ✓活動の可視化 ✓PFS評価指標に基づく効果検証



ロジックモデル

第三者機関（産業医科大学産業保健経営学研究室永田 智久准教授）がロジックモデルを監修

事業A：成果指標（短期）①コラボヘルス指標②従業員の支援認識③未治療者減④要受診者の生活習慣改善

事業B：成果指標（中期）①指導プログラム完遂率②HbA1c/BMI/アルブミン数値改善

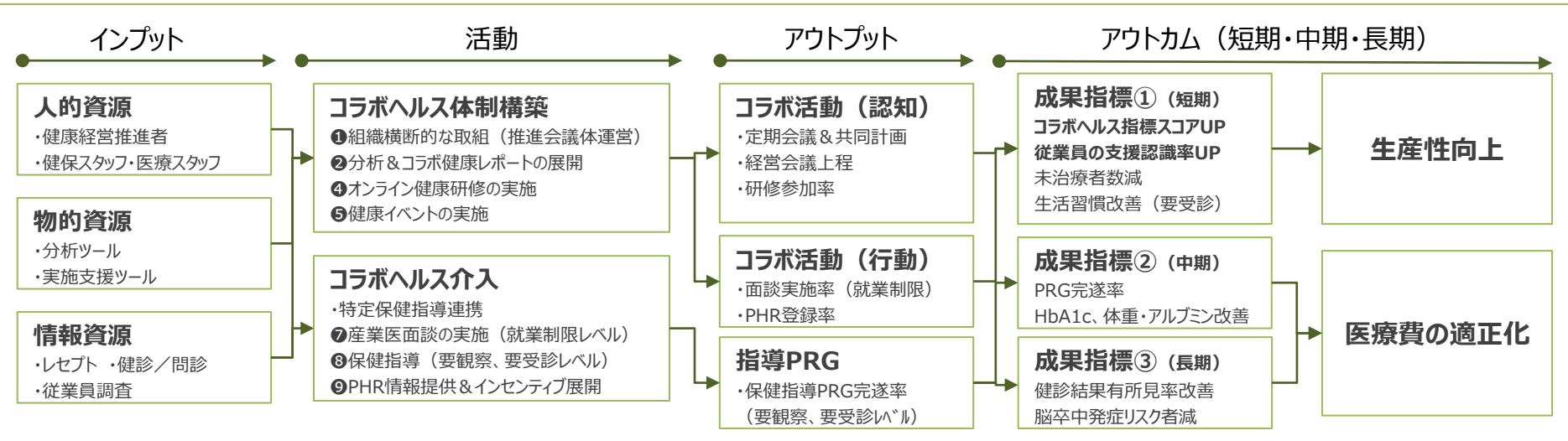
事業C：成果指標（長期）①要治療該当率減②要受診該当率減③要観察該当率減④脳卒中リスク該当率減

1年目成果

民間委託事業者のノウハウ活用によりコラボヘルス推進体制を構築できた

- ✓ コラボヘルス指標はBaseline指数の1.8倍に良化（連携方針は戦略Mapとして策定され、連携の場としての組織体、会議体は整備されシステムも整備されコラボヘルスPDCA展開が可能となった）
- ✓ 2年目は対象を(株)マツモトキヨシに拡大し介入実施率を高める工夫を行うことでより大きな成果に繋げる

ロジックモデル



主な活動内容と今後の予定

